



突然の降雪に備えておきましょう！

～イチゴ、キュウリ、トマトなど施設野菜編



県内でも冬季には突然の降雪が発生して、農作物に被害を生じることがあります。気象予報は急変することがありますので、こまめに気象情報を収集し、事前に降雪による農作物への被害を軽減させる対策に努めてください。

なお、被害が発生してしまった場合には、その程度に応じた対策を図ってください。被害が比較的軽くても、生育への影響、病害の発生などが懸念されますので、下記を参考に対策を行ってください。

また、詳細は「茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル(令和5年9月改定)」について/茨城県 (pref.ibaraki.jp) を参照してください。

事前準備



パイプハウス等の被害を受けやすい施設については、施設内外や周辺の整理、補修、補強などを行い、被害をできるだけ回避する準備をする。また、施設内の暖房器具や燃料等を点検し、正常に稼働するよう確認する。(右チェックシート参照)

なお、屋根等への散水により融雪を行う場合は、積雪前から行うのは有効であるが、積雪後に開始すると、水を含んだ雪の重量で倒壊する恐れが生じるため避ける。

降雪時の対策

安全を確認しながら、速やかに雪下ろしを行う。また、暖房などで、施設内の温度を高め、雪の滑落を促す。なお、施設内へ侵入する場合には、倒壊等の恐れがないことを十分確認する必要がある。

降雪後の対策



施設野菜のうち果菜類(イチゴ、キュウリ、トマト、ピーマン、メロン、スイカ)は、開花から幼果期の耐寒性が低いため、不受精や奇形果などの障害発生や、低温遭遇での生育不良にも注意が必要である。葉菜類でも、急激な低温遭遇で生育不良や茎葉の枯死など、障害が発生する場合がある。

<対策>

- 1) 施設が倒壊や半壊した場合は、安全に修復作業を検討する。
- 2) ビニールの破れやはがれで、ハウス中の作物に被害が生じた場合でも、栽培が継続可能な場合には、早急に破損個所の修復を行い、温度確保に努める。また、施設内に雪や雨水が侵入した圃場は、換気を図るなどして湿度の低下に努める。これら施設内の作物は根傷みなどで草勢が低下しやすくなっているため、果菜類では適正な摘果や早めの収穫で着果負担を軽減する。いずれの作物も、必要に応じて液肥の散布等による生育の回復を図り、さらに病害虫の発生を抑制するための薬剤散布を行う。
- 3) 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植え替えや再播種などを検討する。

作物生育の回復対策(葉面散布剤の使用例)

※各種葉面散布剤は**生育に応じて使い分けてください。**

<葉菜類や根菜類>

メリット青 500～800倍 + グリーンセーフプラス 800～1,000倍 + カルタス 500倍を、3～7日おきに2回程度の葉面散布を行う。

<果菜類>

メリット青またはメリット黄 500倍 + グリーンセーフプラス 800～1,000倍 + カルタス 500倍を、3～7日おきに2回程度の葉面散布を行う。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。

(2) 大雪被害を防止するためのチェックシート

【降雪前に行っておく項目】

項目	チェック欄	チェック項目(点検のポイント)
情報収集	1	最新の気象情報、警報、注意報を常にチェックしているか?
	2	暖房機の燃油残量は十分にあるか?
融雪準備	3	暖房機は正常に作動するか?
	4	ブレースや筋交いの留め金具に緩みがないか?
補強対策・雪の滑落促進	5	基礎部、接続部分、谷樋・柱に腐食・サビはないか?
	6	谷樋や排水路、ハウスの際等の残雪やゴミはないか?
	7	準備していた中柱をたてる等の応急的な補強はしたか?
	8	被覆材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物はないか?
	9	雪の滑落を妨げる防風ネットや外部遮光資材等が展張されていないか?

(日本施設園芸協会資料より)

茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル(p45)より